

特集 ライフステージに合わせた地域支援

発達障害児の地域支援	米山 明
発達障害ネットワーク支援の実践例	塚本千秋
重症心身障害児の地域生活モデル事業	秋山千枝子
放課後等デイサービス	廣中志乃
発達障害のある大学生の支援について—支援コーディネーターの役割	村田 淳
発達障害の地域支援に関するインフォーマルな活動について	福田美智子

※都合により誌面が変更される場合がございます。

●編集名誉顧問

大田仁史 澤村誠志
米満弘之

●編集顧問

石川 誠 浜村明徳

●編集委員

栗原正紀(編集委員長)
伊藤隆夫 佐藤浩二
西脇恵子 山下裕子
渡邊慎一

●編集同人

浅海奈津美	有賀 徹
伊佐地隆	石松隆和
伊藤貴子	岩崎千佳
上菌紗映	生方克之
逢坂伸子	大越 満
太田秀樹	大武美保子
岡田しげひこ	乙坂佳代
加来克幸	寛 淳夫
加藤武彦	金子 寿
川越雅弘	木下康仁
桑山浩明	小林直樹
齋藤正洋	榊原次郎
座小田孝安	佐藤久夫
鈴木孝治	武原光志
玉垣 努	角町正勝
土井勝幸	野尻晋一
橋本美芽	長谷川幹
畑野栄治	半田理恵子
東川悦子	備酒伸彦
廣末ゆか	福田俊江
古屋 聡	丸山 泉
水間正澄	宮崎宏興
宮田昌司	村井千賀
村上重紀	森岡悦子
柳 尚夫	山川百合子
山口晴保	若林秀隆

●査読委員

稲川利光	梅津祐一
金城利雄	阪井康友
澤 俊二	野崎園子
備酒伸彦	松坂誠應
水間正澄	

●編集後記

ツバメの巣づくりの季節となりました。わが家でも軒下の狭い隙間に小さな巣を作り、5、6匹のヒナがすし詰め状態となっています。親鳥たちはひっきりなしに餌を選び続けます。巣に近づいてくるとヒナたちはみんな一斉に大きな口を開けピーピーとにぎやかです。親鳥は一番大きく開けたヒナの口に餌を与えると聞いたことがあります。

さて今月号の特集のテーマは、在宅にいる子どもの摂食嚥下障害に関することです。嚥下の「嚥」はツバメという字が使われています。英語では飲み込みのことを「swallow」と言います。語源はどちらもはっきりしないのですが、親鳥が捕まえた餌をヒナが思いっきり飲み込む時の様子に関係づけられたようです。ヒナが成長し、やがて巣から飛び立つ時、親鳥たちはその周りを飛んで見守ります。子育てが協同作業であると強く感じます。昔と違い現代の日本の食卓では、核家族化やライフスタイルの多様化が進み、家族一緒に食卓を囲むことがめっきり少なくなりました。たとえ家族がそろっていても、おのおのが携帯やテレビを見ながらの食事で会話は少なく、便利なファーストフードやインスタント食品をかきこむように食べることも多くなりました。最近では特に子どもが独りで食べる「孤食」の心身への影響が問題となっており、独りで食事をしていると摂食障害になるリスクが高いという調査結果もあるようです。6月5日の静岡新聞に孤食の改善と世代間交流の目的で子どもたちに無料や低価格で食事を提供する「こども食堂」が全国的に増えており、県内でも相次いで誕生しているという内容の記事がありました。また、先日のテレビでは食育研究家で医学博士の服部幸應氏が心身をむしばむ6つの「こ食」を取り上げていました。①一人だけで食べる「孤食」、②家族それぞれが自分の好きなものだけを食べる「個食」、③自分の好きな決まった物だけ食べる「固食」、④食欲がなく少しの量しか食べない「小(少)食」、⑤パンや麺類など粉を使った主食を好む「粉食」、⑥味付けが濃い物を好む「濃食」。これらを改善し、防ぐポイントは家族のコミュニケーションと述べられています。子どもの心身の成長のため食事は楽しく、おいしく、安全であることが必要です。食育にはツバメの親子のように家族みんなで一生懸命取り組み、そして成長を見守ることの大切さを痛感しています。

編集委員 山下裕子

第11巻第7号[通巻124号] 2016年7月15日発行(毎月1回15日発行)

地域リハビリテーション 7月号

1部定価(本体1,800円+税)
2016年年間予約購読料(12冊) 21,600円+税(送料弊社負担)

発行 | 株式会社三輪書店 代表者: 青山 智
(担当: 大島・木次谷)
〒113-0033 東京都文京区本郷6-17-9 本郷網ビル
Tel 03-3816-7796 / Fax 03-3816-7756
URL <http://www.miwapubl.com>
郵便振替 00180-0-255208

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, ©2016, Printed in Japan

表紙・本文デザイン | 白井弘志(公和図書デザイン室)
印刷 | 三報社印刷(株) Tel 03-3637-0005
広告 | (株) メディカルブレーン Tel 03-3814-5980

本誌の内容の無断複写・複製・転載は、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

【JCOPY】©出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。